

中心静脈カテーテル関連感染症を減らす取り組み

米国 Johns Hopkins 大学病院の集中治療医である Peter Pronovost 医師は 2004 年に中心静脈カテーテル感染予防への取り組みとして、手技前の手洗い、full-barrier precaution(マスク,ガウン,帽子,滅菌手袋,全身ドレープ)、クロルヘキシジンによる刺入部消毒、大腿静脈ラインの回避、カテーテルの早期抜去というエビデンスに基づいた感染予防策を、チェックリストなどの使用により徹底することで John Hopkins 大学の集中治療室のカテーテル関連感染症を激減させることに成功した¹。

その取り組みはミシガン州の 100 以上の病院を巻き込むプロジェクトに発展し、2004-5 年の臨床研究 (Keystone ICU プロジェクト) では州全体のカテーテル関連感染症を約 1/3 に減らすことに成功した²。

さらに、このプロジェクト開始後 3 年以上経ってもその効果は低減しておらず、チェックリストを含めた取り組みが継続して行われている³。

以下に当時使用されたチェックリストの日本語訳を添付する。

添付資料 (チェックリスト)

ただし、この取り組みの肝となるのはただチェックリストを使用したことだけではないことに注意されたい。もともと Pronovost 医師達は ICU における患者管理の質向上の研究を行っており、コミュニケーションエラーを減らす取り組み⁴をはじめとして、目標の達成に必要な過程を分析し綿密な介入を行うこと⁵でプロジェクトを実現している。これが、現在までも続く効果的な取り組みにつながっていると考える。

また、日本における中心静脈カテーテル関連有害事象予防策のチェックリストは COVIDIEN JAPAN より発行されている。

【参考文献】

1. Berenholtz SM, Pronovost PJ, Lipsett PA, et al. Eliminating catheter-related bloodstream infections in the intensive care unit*. Crit Care Med 2004;32(10):2014-20.

2. Pronovost P, Needham D, Berenholtz S, et al. An intervention to decrease catheter-related bloodstream infections in the ICU. *N Engl J Med* 2006;355(26):2725–32.
3. Pronovost PJ, Goeschel CA, Colantuoni E, et al. Sustaining reductions in catheter related bloodstream infections in Michigan intensive care units: observational study. *BMJ* 2010;340(feb04 1):c309–9.
4. Pronovost P, Berenholtz S, Dorman T, Lipsett PA, Simmonds T, Haraden C. Improving communication in the ICU using daily goals. *J Crit Care* 2003;18(2):71–5.
5. Pronovost PJ, Berenholtz SM, Goeschel CA, et al. Creating High Reliability in Health Care Organizations. *Health Serv Res* 2006;41(4p2):1599–617.